

各地で開催される防災訓練に思う。

1月、3月、9月は防災訓練の開催される月です。
地震関係には造語が多い。直下型地震、最近では長周期地振動、緊急地震速報、すべて造語も英語の造語を真似て日本で最近使い出している。

シェイクアウト訓練とは、米国カリフォルニア州各地で始まった毎年10月第3木曜日に実施されている地震防災訓練の名称です。
2008年に開始されたまだ新しい方式の訓練です。ShakeOutは完全な造語で意識すると「一斉防災訓練」ですが、直訳では「地震を吹っ飛ばせ」という意味になります。

臨機応変その場その場の変化に応じて適切な処置をとる行動が必要ではないか。生活環境の変化に対応が必要ではないか……「十年前にはこんな超高層のビルはなかった。」
今年の春の地震防災「模擬訓練」を終えて……特に今年、気象庁の「大阪をお手伝いして思うこと。」

そろそろ、訓練の方法も独自の新しい時代の「模擬訓練」に移行しないと死傷者の減には貢献しない。言うまでもなく地震は、いつどこでどんな規模の地震が発生するかわからない、その対応は現状の方法では不可能ではないかと開催者として考えさせられた。

その地震に対応するための訓練(模擬訓練)は、その時代、その場の変化に応じた適切な行動を取らなくてはならない。地震災害は何時も決まったものではない、過去の地震、阪神淡路大震災、東北太平洋沖地震の経験でもその規模、被害の状況はそのつど決ったものではない。
過去の経験をいかしたいが、そうじゃないのが地震だ、地球上の環境を作り上げているのは、我々人間である、数年前までの建物は三十数mの高さが制限されていた。今では300mを越す建物が聳え立っている、そんな時代の訓練は「模擬訓練」とし臨機応変、その時代その場の変化に応じて適切な処置をとった、行動が取れる訓練(体験)が必要ではないか。

だが、各地で実施されている訓練はその時代の変化に対応していないのではないか、旧態のままの状態ではないか、イザと言うときのための模擬訓練が必要ではないかと思知らされた。
一部の地域で「Shake Out」とした訓練が実施されているがこの造語も十年前に日本で緊急地震速報が運用されそのときに大阪港区の幼稚園で実施した訓練をNHKのニュースで放映された。

そのニュースを参考にとカリフォルニア州と大学の地震研究所の皆さんが一体になって作られたのが「Shake Out」訓練の始まりです。当事「そこには、避難場所位置の指定、窓側の(危険)レットゾーンの指定」をしていました。次ページを参考に。



Shake Outの始まり。

「Drop(まず低く、しゃがむ)」、「Cover(頭を守る、かくれる)」、「Hold On(動かない、待つ)」の合言葉とともに、自分を守るがUSA仕様2008年からアメリカのカリフォルニア州で行われている地震に備えた避難訓練の造語として「Shake Out」が作られた単語、図案化したのはUCALの関係者。

だが実は2004年の日本の緊急地震速報の訓練を参考にしたものであった。「日本版は、「伏せる、身を守る、待機する」と幼稚園で行っていた。又その後情報、備え、行動ともしている。」...

UCLAバークレー校Richard Allen 教授2013 .5 来訪談
「UCLAとはUniversity of California, Los Angeles」

Shake Out 「訓練」の始まり。



緊急地震速報の通報 一瞬に避難 撮影スタッフが驚いていた。幼い園児たちの行動



Shake Out ロゴが出来るまで

教室の中央の安全ゾーンに警報と共に避難 「大阪みなと幼稚園」2004年



写真はイエロゾーン(後に赤に変更) 気象庁の1階ホールも実施されていた。

日常の安全ゾーンの状態



運動場で点呼 安全確認風景



避難参考写真

端末装置のデザインと訓練指導を受けたのは今、防災教育で有名な東大の片田教授でした。NHK取材記録から。